

政策 41 自然との共生

施策 01 豊かな自然環境と水資源の保全

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、自然環境	豊かな自然環境が保全されています。

施策の成果状況と評価

指標	自然環境に満足している市民の割合	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき
①		%	-	87.9	-	→	
評価	(状況) 自然環境に満足している市民の割合は、実績値を2年に1度実施する市民アンケートによる取得としているため、実績値が未取得となっています。ただし、河川水質の安定、農地の多面的機能の維持・発揮に取り組んでいる団体や農用地面積の増加などにより、豊かな自然環境が保全されている状況であると考えられるため、成果は横ばいであると推測されます。						目標達成度

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

※指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

□基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 自然環境の保全
基本事項 02 放射能対策の推進
基本事項 03 農林地の保全
基本事項 04 人と環境にやさしい農業の推進

基本事項01 自然環境の保全

指標①	BOD（生物化学的酸素要求量）基準値達成率	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき															
	【環境課】	%	100	100	100	→	☀ (向上)															
評価	<p>(状況) BOD（生物化学的酸素要求量）基準値達成率は、水質測定を実施した22河川（6回/年）のうち、すべての地点の平均値でBOD基準を満し、達成率は100%です。                  (原因) 下水道の普及、事業所・住民の環境保全意識の向上などが要因で、河川の水質が引き続き安定している状況と考えられます。</p>	<table border="1"> <caption>BOD Compliance Rate (%)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績値</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>90</td></tr> <tr><td>H25</td><td>100</td></tr> <tr><td>H26</td><td>100</td></tr> <tr><td>H27</td><td>100</td></tr> <tr><td>H28</td><td>100</td></tr> <tr><td>H29</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>						年度	実績値	H24	90	H25	100	H26	100	H27	100	H28	100	H29	100	☀ (向上)
		年度	実績値																			
H24	90																					
H25	100																					
H26	100																					
H27	100																					
H28	100																					
H29	100																					
							☑ (達成)															

基本事項02 放射能対策の推進

指標①	除染を実施（発注）した地区の割合（累計）	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき															
	【原子力災害対策課】	%	85.3	100	100	→	☀ (向上)															
評価	<p>(状況) 除染を実施（発注）した地区の割合は100%です。除染実施計画で除染実施区域とした市内全域での除染作業が全て完了しました。                  (原因) 平成29年3月で市内全域の除染作業が完了しました。なお、引き続き、除染土壌等の搬出を行います。</p>	<table border="1"> <caption>Decontamination Completion Rate (%)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績値</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>30</td></tr> <tr><td>H26</td><td>50</td></tr> <tr><td>H27</td><td>85.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>100</td></tr> <tr><td>H29</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>						年度	実績値	H24	0	H25	30	H26	50	H27	85.3	H28	100	H29	100	☀ (向上)
		年度	実績値																			
H24	0																					
H25	30																					
H26	50																					
H27	85.3																					
H28	100																					
H29	100																					
							☑ (達成)															

基本事項03 農林地の保全

指標①	多面的機能に取り組んでいる農用地面積	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき															
	【農政課】	ha	2,880	3,454	3,731	→	☀ (向上)															
評価	<p>(状況) 多面的機能に取り組んでいる農用地面積は3,731haで、前年度と比較し277ha増加し、取組団体も3組織増加しています。平成24年度基準値1,754haとの比較でも1,977ha増加しており、今後も増加することが見込まれます。                  (原因) 地元説明会等により、農家の農用地の維持管理に対する意識が向上し、多面的機能に取り組む組織が増加しました。それに伴い取り組んでいる農用地面積も増加しました。</p>	<table border="1"> <caption>Multi-functional Agricultural Land Area (ha)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績値</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>1,800</td></tr> <tr><td>H25</td><td>1,900</td></tr> <tr><td>H26</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>H27</td><td>2,900</td></tr> <tr><td>H28</td><td>3,454</td></tr> <tr><td>H29</td><td>3,731</td></tr> </tbody> </table>						年度	実績値	H24	1,800	H25	1,900	H26	2,000	H27	2,900	H28	3,454	H29	3,731	☀ (向上)
		年度	実績値																			
H24	1,800																					
H25	1,900																					
H26	2,000																					
H27	2,900																					
H28	3,454																					
H29	3,731																					
							---															

基本事項04 人と環境にやさしい農業の推進

指標①	環境にやさしい農業に取り組んでいる農業者数	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき															
	【農政課】	人	687	674	641	→	☔ (低下)															
評価	<p>(状況) 環境にやさしい農業に取り組んでいる農業者数（エコファーマー認定者数）は641人で、前年度と比較し33人減少しています。また、平成24年度基準値1,526人との比較では、半数以下に減少しています。                  (原因) 平成29年度は、水稲、キュウリなどで新たに20人が認定者となりましたが、安積疏水土地改良区が行っていた水稲エコファーマー取得者に対する水利費軽減措置の廃止などにより認定者が大きく減少したと考えられます。</p>	<table border="1"> <caption>Eco-farmer Numbers (人)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績値</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>H25</td><td>1,450</td></tr> <tr><td>H26</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>H27</td><td>687</td></tr> <tr><td>H28</td><td>674</td></tr> <tr><td>H29</td><td>641</td></tr> </tbody> </table>						年度	実績値	H24	1,500	H25	1,450	H26	1,400	H27	687	H28	674	H29	641	☔ (低下)
		年度	実績値																			
H24	1,500																					
H25	1,450																					
H26	1,400																					
H27	687																					
H28	674																					
H29	641																					
							---															

□基本事項の成果状況と評価

- 基本事項 01 自然環境の保全
- 基本事項 02 放射能対策の推進
- 基本事項 03 農林地の保全
- 基本事項 04 人と環境にやさしい農業の推進

基本事項04 人と環境にやさしい農業の推進

		単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標のうごき														
指標②	環境にやさしい農業が実施されている農地面積	ha	528	539	447	→															
	【農政課】	<table border="1" style="display: none; margin-top: 10px;"> <caption>環境にやさしい農業が実施されている農地面積の推移 (ha)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>528</td></tr> <tr><td>H25</td><td>539</td></tr> <tr><td>H26</td><td>447</td></tr> <tr><td>H27</td><td>447</td></tr> <tr><td>H28</td><td>447</td></tr> <tr><td>H29</td><td>447</td></tr> </tbody> </table>					年度	実績値 (ha)	H24	528	H25	539	H26	447	H27	447	H28	447	H29	447	(低下)
年度	実績値 (ha)																				
H24	528																				
H25	539																				
H26	447																				
H27	447																				
H28	447																				
H29	447																				
評価	<p>(状況) 環境にやさしい農業が実施されている農地面積 (エコファーマー栽培面積) は447haで、前年度と比較し92ha減少しており、平成24年度基準値2,097haとの比較では1,650ha減少しています。</p> <p>(原因) 平成29年度は、新たに20人が認定され、栽培面積が27.2ha増加しましたが、安積疏水土地改良区が行っていた水稲エコファーマー取得者に対する水利費軽減措置の廃止などにより面積が大きく減少したと考えられます。</p>	(ha)					目標達成度														
							---														

政策 41 自然との共生

施策 02 環境学習の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	市民が環境の重要性を意識し、環境にやさしい活動に取り組んでいます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	環境活動平均実践項目数	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【環境課】	項目	-	4.58	-	
評 価	(状況) 環境活動平均実践項目数は、実績値を2年に1度実施する市民アンケートによる取得としているため、実績値が未取得となっています。ただし、地域における環境活動人数は減少していますが、各種環境講座の受講者数は増加しており、環境の重要性を意識している市民が増えていると考えられるため、成果は概ね横ばいであると推測されます。	(項目) 					目標 達成度
							---

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

※指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

□基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 環境意識の啓発

基本事項 02 各種環境学習の推進

基本事項01 環境意識の啓発

指標 ①	地域における環境活動参加人数	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【環境課】	人	-	22,243	18,530	→
評 価	<p>(状況) 地域における環境活動参加人数は延べ18,530人で、前年度と比較し3,713人減少しました。地域における環境活動としては、町内会・行政区ごとの環境美化活動などです。市が委嘱している市環境推進員の活動報告に基づいて、参加人員を把握しています。</p> <p>(原因) 参加人数は、地域の行事日程や天候の影響等により減少しましたが、活動内容に変更がないため、今後も地域の環境活動を啓発する必要があると考えます。</p>	<p>(人)</p>				目 標 達 成 度	

基本事項02 各種環境学習の推進

指標 ①	各種環境講座の延べ受講者数	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【環境課】	人	1,054	950	1,011	→
評 価	<p>(状況) 各種環境講座の延べ受講者数は1,011人で、前年度と比較し61人増加しました。内訳は、市内小学3年生から5年生を対象とする「菜の花プロジェクト環境学習」で452人、小学4年生を対象とする「下水道出前講座」で514人、中学1年生を対象とする「河川水質調査」で45人の参加がありました。</p> <p>(原因) 下水道出前講座では80人程度増加しているものの、新規に環境講座を実施した学校がなかったことから、対象とする学年範囲の拡大や新講座の開設等、施策展開の拡大を図る必要があると考えます。</p>	<p>(人)</p>				目 標 達 成 度	

政策 42 環境にやさしい社会づくりの推進

施策 01 低炭素社会の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
可燃ごみ、市管理施設	省エネルギー化、ごみ減量化により、Co2排出量が低減されています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	可燃ごみ最終処分量	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【環境課】	t	1,815	1,927	1,835	
評価	(状況) 可燃ごみ最終処分量(可燃ごみの焼却灰)は1,835tで、前年度と比較し92t減少しています。 (原因) 可燃ごみ処理量では、家庭系は183tの減少、事業系は283tの増加、合計で100t増加していますが、ごみの分別が徹底され、可燃ごみ全体の74%を占める家庭系可燃ごみの不燃物等の混入が減ったため、可燃ごみ最終処分量が減少したと考えられます。						(向上)
		目標達成度	---				

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

※指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

□基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 省資源・省エネルギーの推進

基本事項 02 ごみ減量化の推進

基本事項01 省資源・省エネルギーの推進

指標 ①	二酸化炭素排出量増減率	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
	評価	【環境課】  (状況) 二酸化炭素排出量増減率は、平成28年度(27年度分集計)と平成29年度(28年度分集計)を比較した数値で、平成28年度は1.9ポイント減少(排出量9,907t-co2)、平成29年度は1.7ポイント減少(排出量9,743t-co2)で、164t-co2削減されました。今後は、平成29年5月から新庁舎が稼働しエネルギーの合理化が進むことで、二酸化炭素排出量の削減が期待できます。 (原因) すがわエコ実行プランの実施により、各施設での省エネに対する意識が高まったことや、環境にやさしい発電方法を実施している電力会社への移行が進んだことなどが要因と考えられます。	%	4.1	-1.9	-1.7	→

基本事項02 ごみ減量化の推進

指標 ①	市民一人1日当たりの可燃ごみ排出量	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
	評価	【環境課】  (状況) 市民一人1日当たりの可燃ごみ排出量は824gで、前年度と比較し3g増加しています。増減の内訳は、家庭系可燃ごみ8gの減少、事業系可燃ごみ11gの増加となっています。可燃ごみ排出量の内訳としては、家庭系可燃ごみ602g、事業系可燃ごみ222gとなっています。 (原因) 家庭系においては生ごみ、事業系においては紙ごみの減量化が十分に図られていなかったことが原因と考えられます。	g	819	821	824	→

政策 42 環境にやさしい社会づくりの推進

施策 02 循環型社会の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、行政、民間企業、資源	市民、行政、民間企業の連携により、資源循環型社会が実現しています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	リサイクル率（再資源化率）	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【環境課】	%	17.0	16.2	15.1	
評価	<p>(状況) リサイクル率（再資源化率）は15.1%で、目標値である14.8%を0.3ポイント上回り、目標を達成しました。しかし、前年度との比較では1.1ポイント低下しています。</p> <p>(原因) 事業系資源ごみ回収量は1,348tから1,291t、家庭系資源ごみ回収量は2,473tから2,245t、集団資源回収量は783tから717tと、すべて減少しています。市内スーパー等で、資源回収を行っている店舗等が増えているため、市や集団資源回収で収集する資源物が減少していることが要因と考えられます。</p>						(横ばい)

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

※指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。



□基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 地域内資源循環型まちづくりの構築

基本事項 02 再生可能エネルギーの利用推進

基本事項01 地域内資源循環型まちづくりの構築

指標 ①	リユース、リサイクルを意識して行動している市民の割合	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき						
		【環境課】	%	-	3.3	-		→					
評価	<p>(状況) リユース、リサイクルを意識して行動している市民の割合は、実績値を2年に1度実施する市民アンケートによる取得としているため、実績値が未取得となっています。ただし、現在、インターネットオークションや、スマートフォン個人取引アプリ等の利用者が全国的に増えていることから、若者や子育て世代を中心として、リユース、リサイクルを意識して行動している市民の割合は増加傾向にあると考えられます。</p>	<table border="1"> <caption>リユース、リサイクルを意識して行動している市民の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>3.3</td> </tr> </tbody> </table>					年度	実績値 (%)	H26	2.2	H28	3.3	---
		年度	実績値 (%)										
H26	2.2												
H28	3.3												
							目標達成度						

基本事項02 再生可能エネルギーの利用推進

指標 ①	再生可能エネルギー発電装置Kw数	単位	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H29)	指標の うごき														
		【環境課】	Kw	3,788.6	4,353.5	4,946.0		→													
評価	<p>(状況) 再生可能エネルギー発電装置Kw数は4,946.0Kwです。太陽光発電装置Kw数は、前年度の4,353.5kwと比較し、約593kw(うち一般住宅482kw、公共施設110kw)増加しましたが、住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助金の申請件数は停滞しています。そのほか、HEMSが12件、蓄電池が7件の申請がありましたが、地中熱利用システムは実績がありませんでした。 (原因) 太陽光発電装置の件数の停滞は、震災需要による建替えが落ち着きを見せていること、相当の普及が図られてきたことなどが原因と考えられますが、今後、戸建住宅におけるエネルギーゼロハウスの普及などにより一定の需要は維持されると見込んでいます。</p>	<table border="1"> <caption>再生可能エネルギー発電装置Kw数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (Kw)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>3,788.6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>4,353.5</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,946.0</td> </tr> </tbody> </table>					年度	実績値 (Kw)	H24	1,000	H25	2,000	H26	3,000	H27	3,788.6	H28	4,353.5	H29	4,946.0	☀ (向上)
		年度	実績値 (Kw)																		
H24	1,000																				
H25	2,000																				
H26	3,000																				
H27	3,788.6																				
H28	4,353.5																				
H29	4,946.0																				
							目標達成度														